

**未来医療研究人材養成拠点形成事業**  
**選定事業の概要と推進委員会からの主なコメント**  
**[テーマB：リサーチ・マインドを持った総合診療医の養成]**

		整理番号	B - 4
申請担当大学名 (連携大学名)	東京大学		
事業名	新しい大学 - 地域間連携での研究人材育成		
事業責任者	大学院医学系研究科研究科長・医学部長 宮園 浩平		
<b>事業の概要</b>			
<p>「治し、支える医療」の実践にむけ、教育・研究・臨床の3部門を担う在宅医療学講座を設置し、高度急性期を担う東大病院から、在宅療養を含めた包括的な視点に立った新しいスタイルの地域医療連携モデルを提示する。具体的には、地域の行政や医療機関と本学の協働モデルである柏地区の基盤も活用し、本郷の東大医学部及び病院によるリーダーシップの下、学部学生、研修医、開業医等を対象に大学 - 地域間連携に重きを置いた形での在宅医療の臨床教育を行い、地域包括ケアを支える医療人材の養成や医道の再教育に取り組むとともに、在宅療養の虚弱高齢者、難治疾患患者等への臓器横断的・全人的な診療アプローチを基盤とした臨床研究を推進し、暗黙知が多い在宅医療の臨床の現状を本学の試みによって学問体系化し、「生活臨床」に向けての学問体系の確立を目指して、在宅医療分野における大学のロールモデルを示し、日本の医療改革の橋頭保の役割を果たす。</p>			
<b>推進委員会からの主なコメント</b> : 優れた点等、 : 改善を要する点等			
<p>在宅医療分野を「生活臨床」と位置づけ、学問体系として確立しようとする試みには期待できる。在宅医療だけが総合診療ではないが、地域を設定して在宅医療の教育・研究・臨床に集中的に取り組もうとしている。</p> <p>すでに連携基盤ができている柏地域での取組は、実現性が高いであろう。</p> <p>在宅医療学講座を中心としたユニークな取組である。</p> <p>アウトプットが明確に定められている。</p> <p>超高齢期の虚弱高齢者だけでなく、重症心疾患、神経難病、小児疾患まで着目していることから、確実に実行できるような実施体制の充実が求められる。</p> <p>大学として臨床研究をする基盤は構築される計画だが、実際にリサーチ・マインドを持つ総合診療医教育の対象が大学院3名/年のみと少ない。</p> <p>在宅医療のデータベース構築とその研究応用について具体的アイデアに乏しい。</p> <p>在宅医療でトップレベルの海外先進事例の取り入れや連携、共同研究が望まれる。</p> <p>医学部低学年を対象とした早期の教育も考えることが望ましい。</p> <p>達成目標、評価指標は、新規性や独創性に関する記載が中心であり、達成目標・評価指標を明確にして、事業に取り組むことが必要。</p>			
<b>留意事項</b>			
<p>「かかりつけ医の在宅医療参入を促す多職種連携研修会」は郡市医師会・市町村の主催であることから、本補助金の対象外となる。</p>			